

ロハスパッカーズ通信

定期報告 9 月 1 回目—沸騰都市パナマ—

文責：有村拓朗



なんじゃこれは！これまでの中米の国、都市とは明らかに一線を画す光景がそこにはありました。降り立ったのはコスタリカから 15 時間ほど時間をかけてたどり着いたパナマのバス停。そこは他の都市で見るバス停とは雲泥の差の、先進国とっていいのではないかと思うほど、日本のショッピングモールに引けを取らない空間が広がっていました。ファーストフード、携帯、は他のグアテマラやホンジュラス、ニカラグアでも普及してきていることは体験してきておりましたが、香水を買う人々、シャネルやグッチなどのブランドバッグを見る人々など、嗜好品にまで手が伸びるところまで達している彼らをみて、その経済成長を肌で感じました。

通貨がドルということもあり、アメリカの援助を受けながら金融で成長をしていったこの国は、現在開発が大幅に進んでおり、まるでNHK スペシャルの「沸騰都市」シリーズで見たドバイを彷彿とさせるような、ビルが軒を連ね、われ先にと建っていました。



タクシーの運転手や、宿の管理人に「今ってパナマの景気はどうですか？」ときくと、「ここ4、5年は本当に景気がいいよ！」と一般の人にまでその景気の良さが浸透していて、彼らのパワーがこれからどのようにパナマを押し上げていくのか、楽しみにになりました。

ここでの生活がどのようなものになるのか、非常に楽しみです。歴史の教科書に出てきたパナマ運河は是非この目で見てきたいと思います。しかし今日は本当に疲れました。明日からの散策に向けて、今日は早く寝たいと思います。

